

2017年 3月 10日

兵庫教育大学長 殿

受入研究者

所属・職 障害科学コース

氏名 河相 善雄 印

外国人研究者短期招へいプログラム研究成果報告書

外国人招へい研究者の研究経過について、下記のとおり報告します。

1. 外国人招へい研究者 氏名 (所属・職・国籍)
閔 千植 [Min Chunsik] (大邱教育大学校・教授・韓国)
2. 研究課題名
インクルーシブ教育の進捗状況に関する日韓比較研究
(英訳名)
A Japan-Korea comparative study of the progress of the inclusive education
3. 期間
2017年 1月 24日 ～ 2017年 2月 3日 (11日間)
4. 主な研究協力者 氏名 (所属・職・氏名)
河相 善雄 (兵庫教育大学大学院障害科学コース・教授)

(注) 必ず招へい研究者の作成した Research Report と併せて、招へい期間終了後1か月以内に、提出してください。 (裏面につづく)

5. 滞在中の日程

年月日	訪問先名称・訪問内容（研究討議・講演・視察等）
2017.	
1. 24. (화)	- 大邱 出発 - 大阪 到着
1. 25. (수)	- 神戸市教育委員会と上野中学校訪問（日本教育の理解と討議）
	- 神戸市 http://www.city.kobe.lg.jp/child/education/index.html
	- 上野中学校 http://www2.kobe-c.ed.jp/uen-ms/index.php?page_id=0
1. 26. (목)	- 「学校法人きのくに学園」視察（日本の代替教育の理解と討議）
	- きのくに学園 http://www.kinokuni.ac.jp/
1. 27. (금)	- 大阪 - 京都 移動
1. 28. (토)	- 京都 清水寺探訪（日本の国民感情の理解のための文化探訪）
1. 29. (일)	- 京都金閣寺と神社本社探訪（日本の国民感情の理解のための文化探訪）
1. 30. (월)	- 京都 - 神戸 移動
1. 31. (화)	- 兵庫県立姫路特別支援学校 視察
	http://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/himeji-sn/htdocs/
2. 01. (수)	- 兵庫教育大学訪問（特講と懇談会）
2. 02. (목)	- 神戸大学附属特別支援学校 視察
	http://www.edu.kobe-u.ac.jp/hudev-yougo/web-content/Welcome.html
2. 03. (금)	- 大阪 出発 - 大邱 到着

(注) 来日日及び離日日を含めて記入してください。

6. 研究討議・研究協力等実施の状況とその成果

日韓の文化的背景を含め、学校教育への影響、特別支援教育制度等に関する共通点・相違点について議論した。そこでは集団に基盤をおく教育（日本）と個人に基盤をおく教育（韓国）という相違点が指摘され、今後さらに検討すべき点とされた。また、特別支援学校の実態視察を通じて設置母体により課題が異なっていることが明らかになった。今後さらに比較検討されるべきことが認識された。

7. 外国人招へい研究者事業に対する意見・要望等

外国人研究者と情報交換したり、相互理解を深める上で意義深い事業であると感じられた。ただ、通訳や専門的知識提供者などの人員配置に制約が多く感じられ、意思疎通・文化的背景の理解等の点で成果が薄らいた観がある。今回は本学在籍の韓国人学生の多大な協力により、比較的スムーズに運んだが、言語が障壁になる可能性も感じられたところである。より深く相互理解や情報交換が進むよう、手続き的な面での簡素化などの工夫が望まれる。

別記第4号様式【招へい研究者作成/By Fellow】

* Please submit your research report to HUTE through your host researcher within one month after the end of your Fellowship Period in Japan.

To President, HUTE

HUTE SHORT-TERM FELLOWSHIP PROGRAM

FOR RESEARCH IN JAPAN

RESEARCH REPORT

(Cover Page)

Affiliation: 大邱教育大大学校 特殊統合教育学科

Name of the Host Researcher: 河相 善雄

Fellowship Period: From 2017年 1月 24日 To 2017年 2月 3日

Title of the Research:

A Japan-Korea comparative study of the progress of the inclusive education

Date: 2017年 2月 14日

Your Signature: Min Chunsik



* Future Contact Information

(If you wish HUTE to maintain contact with you after the completion of your fellowship)

(Office/Home)

Fax No.:

E-mail Add:

Address:

aero, Namgu,

1. 含めるべき項目:
 - (a) 研究活動, 研究討議, 講演旅行等の概要
 - (b) あなたの専門分野における日本の科学の現状に関する印象と考え
 - (c) 特にこのプログラムに関する兵庫教育大学への意見もしくは提案
 - (d) その他の意見等
2. できるならば, 日本での実験, 討議または研究旅行等のような研究活動の間に撮られた自分の写真を添付してください。

1 日本の一般的な教育の背景を理解すること

統合教育の方向性を理解すること：同じ制服、同じ体操服、同じ靴を好む日本の教育は、個人の利益よりも、共同の線を追求する教育として、一体感を重要視している傾向がある。共同の線が強調されている日本の教育について個人の独特性を失っているという批判がある。これを解決するための代替手段としてきのくに学園は、個人の自由を強調しながら代替学校を運営しているという印象を受ける。一方、韓国の教育は、共同の線を追求しようとする目標は提示されてはいるが、個人の利益が伴わない場合は、共同体の所属さえ変更することも可能であるというような顕著な特徴を見せている。

日本の文化的背景を理解すること：日本の代表的な宗教は、人が死ぬと神格化されて子孫を守ると信じられているものであり、形式は仏教の形を採ることもある。従って、寺社は山の中に設置されるのではなく村の近くに設置されており、いつでも先祖の神に保護を受けようとするように思われる。一方で、韓国はキリスト教と仏教など様々な宗教が存在し、個人の性向と利益に基づいて宗教を選択することとされる。

2 日本の特別支援教育の実態を理解すること

日本の特別支援学校の視察を通じ、韓国とは異なる授業形態を観察できた：韓国の特殊学校の授業は、ほとんどクラス中心の教育が行われている。一方日本の特別支援学校での授業は、多くが3つまたは4つのクラスが協力して合同授業を進めている。教師が協力して能力と役割に応じた授業を共同で進めながら、子供たちと一緒に楽しく授業を進行する姿が印象的であった。

兵庫教育大学での特別講義と専攻教授らとの懇談会は、両大学の交流を活性化しただけでなく、共同の関心事である統合教育関連の共同研究を積極的に推進するきっかけとなると感じられた。今後の共同研究推進のために、両大学で積極的な支援が成されることが望まれる。

今回の日本兵庫教育大学で実施された外国人研究者招請プログラムを通じて、日本の一般的な教育と文化そして特別支援学校を視察することで、韓国の教育と共通点と相違点を理解できるようになり、何よりも、共同の関心事になっている統合教育について現場教師らと多くのディスカッションができ、今後の両大学間の研究交流のために大学当局からの積極的な支援が提供されたことが有意義に感じられた。